

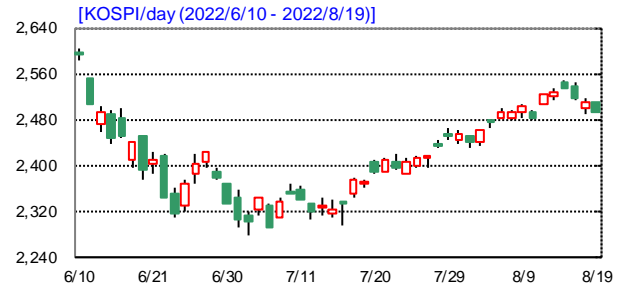


【韓国】 総合指数は週間で1.4%安と5週ぶりに反落、今週は中銀基準金利に注目

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.4%安と5週ぶりに反落。15日が光復節で休場のため4日間のみの取引。連休明け16日は前日の米株高の流れを受けてハイテク株を中心に買いが入り、11日からの3営業日続伸となったものの、その後は軟調に推移した。17日は米FOMC議事要旨の公表を前に利益確定売りが出た。18日は米長期金利の上昇を受けてハイテク株が売られ、相場を押し下げている。韓国国内で新型コロナウイルスの感染が再拡大する兆しがあることも投資家心理を悪化させた。19日は米金融引き締めに対する懸念が再燃し、海外投資家や年金基金の売りが目立ち、節目の2500ポイントを割り込んで週の取引を終えている。今週も2500ポイント付近でもみ合いか。国内では25日発表の韓国中銀基準金利が注目されそうだ。

▼指数チャート

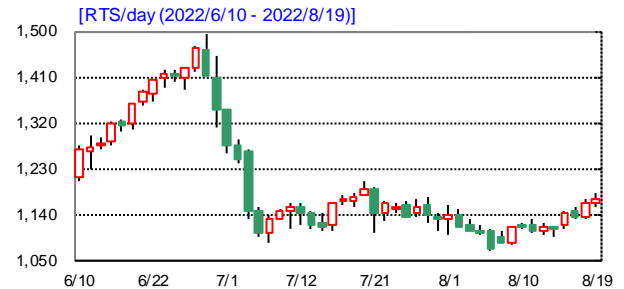


【ロシア】 RTS 指数は週間で4.9%高と大幅に続伸、今週は堅調な値動きか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で4.9%高と大幅に続伸。欧州預託証券の決済が許可されるとの見通しや非居住者による売り圧力が限られるといった観測が好感されたほか、ルーブル高も指数を押し上げた。欧州委員会がロシア株式の欧州預託証券の決済を許可するとの見通しに加え、非居住者のロシア株売りが想定より小幅にとどまるとの見方が追い風となった。週後半の原油相場の反発も好感され、ルーブルは対ドルで3.3%上昇。RTS 指数は1170.57ドルで週の取引を終え、7月20日以来の水準を回復した。個別では金融のTCSグループが21.1%高と急伸し、産金のポリメタルが10.8%高、ポリユスが5.1%高、肥料のフォスアグロが9.0%高、エネルギーのノバテックが4.7%高、資源のルサルが4.4%高。今週は堅調な値動きか。

▼指数チャート

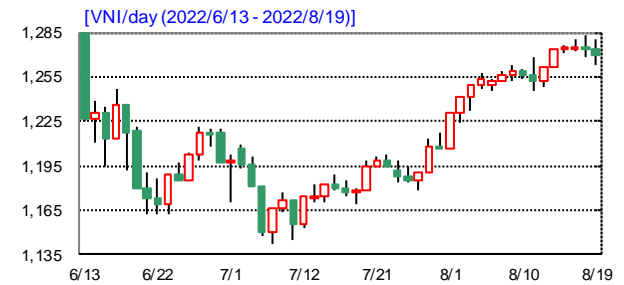


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で0.5%高と6週続伸、今週は高値もみ合いか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.5%高と6週続伸。投資家のリスク選好が強まり、主力大型株に資金が流入した。週明け15日は指数が前週末比0.9%高。金融株などを中心に主力大型株が出来高を伴って上昇した。週後半はやや利益確定売りが優勢となったが、週間ではプラス圏で終了。VN 指数は18日に1283.15ポイントまで上昇し、6月13日以来の戻り高値を更新した。個別銘柄ではサイゴンビール・アルコール飲料が7.1%、ファットダット不動産開発が7.1%、ベトナム・プロスペリティー・ジョイント・ストック・コマーシャル・バンクが4.5%、マサン・グループが4.5%上昇した一方、パオ・ベトナム・ホールディングスが4.1%、ペトロベトナム電力総社が2.9%、ベトナム・ラバー・グループが2.6%下落した。今週は高値もみ合いか。

▼指数チャート



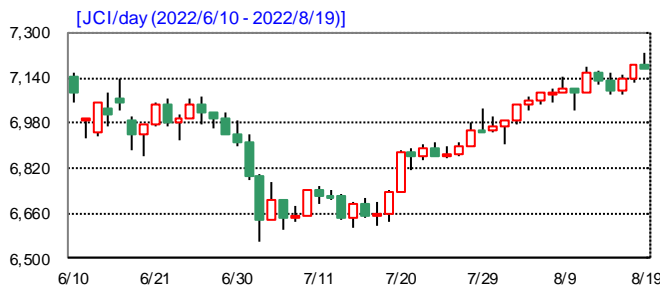


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.6%高、今週は 23 日に中央銀行が金融政策決定会合を開く

ジャカルタ総合指数は 4 日間の取引で 0.6%高と 5 週続伸。狭いレンジでの値動きが続いた。週初の 15 日は、7 月の貿易収支が市場予想から上振れたものの買い材料視されず、終値で 3 営業日ぶりに 7100 ポイントを割り込んだが、16 日は金融株が指数上昇をけん引し、この水準を回復。祝日を挟んだ 18 日は引け際に買われて続伸すると、19 日は場中に一時、7200 ポイント台に乗せたが、終値では 3 営業日ぶりに反落した。今週は 23 日に中央銀行が定例会合を開催する予定で、政策金利は過去最低水準の 3.50%に据え置かれるとの見方が優勢。外部要因では 22 日発表の中国の最優遇貸出金利が焦点になりそうだ。

▼指数チャート

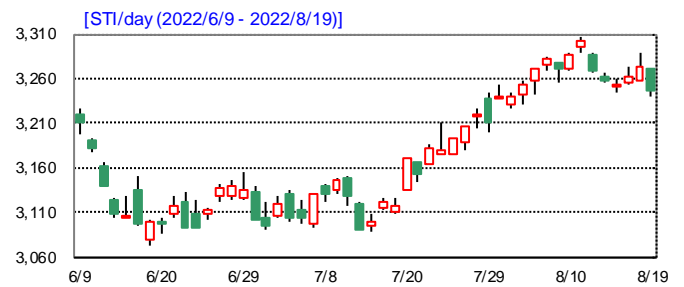


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 0.7%安、今週は 7 月の CPI と鉱工業生産が焦点

スレーツタイムズ指数は週間で 0.7%安と続落。1 週間を通じて終始 3200 ポイント台での取引となった。週初の 15 日は中国の 7 月の鉱工業生産と小売売上高が市場予想から下振れし、中国株が下落した流れを引き継ぎ続落。16 日も売り優勢の展開が続いたが、17 日は 7 月の非石油地場輸出が予想を上回った効果などで 4 営業日ぶりに反発した。18 日は前日に公表された 7 月開催分の米 FOMC 議事要旨で、過度な利上げに対する懸念が示されたことが買い材料となり続伸。ただ、19 日は銀行大手 3 行が指数下落を主導し、3 日ぶりに反落して引けた。今週は 23 日に 7 月の CPI、26 日に鉱工業生産が発表される予定。

▼指数チャート

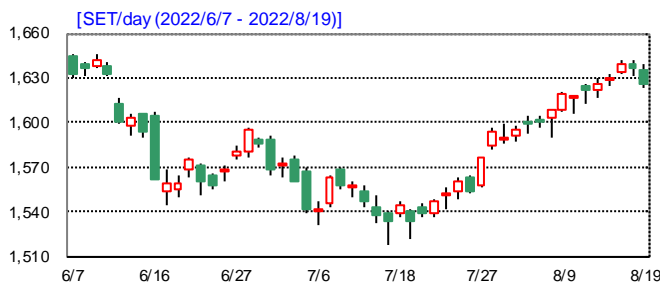


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.2%高、今週は 7 月の貿易統計に期待

SET 指数は週間で 0.2%高と 5 週続伸。週後半に下落し、上昇幅が縮んだ。連休明けの 15 日は、4-6 月期の GDP が前年同期比 2.5%増と市場予想から下振れしたものの影響は軽微で、指数は小幅続伸。16 日は中央銀行が観光業の回復を受けて下半期も経済成長が続くとの見通しを示した効果で買われた。好地合いが続く中、17 日も上値を広げたが、18 日は前日に公表された米 FOMC 議事要旨で当面は利上げを継続する方針が示されたことが売り材料となり、5 日ぶりに反落。19 日は利益確定売りで続落して引けた。今週は 24 日に 7 月の貿易統計(通関ベース)が発表される予定で、市場予想を上回れば好材料。

▼指数チャート

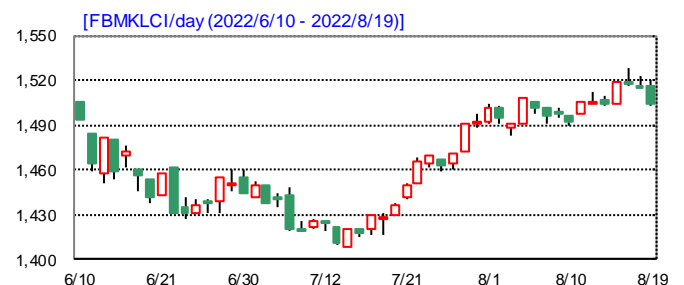


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.1%安、利益確定売りで軟調な値動き

クアラルンプール総合指数は週間で 0.1%安と小幅に 5 週ぶりに反落。前週までの反動で利益確定売りが続いた。週初の 15 日はマラヤン・バンキング (メイバンク) を含む大型株の一角が売られ、指数は 3 営業日ぶりに反落。16 日は引け際に買われた効果で反発したが、その後は買い材料に乏しく、じりじりと下値を広げる展開となった。19 日は 7 月の貿易収支が市場予想から下振れした影響などで 3 日続落して引けている。今週は 26 日に 7 月の CPI が発表される予定で、前年同月比の上昇率は 4%台になる見通し。外部要因では 25-27 日に開催される米経済シンポジウムのジャクソンホール会議が意識されそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。